

## 令和5年第2回清瀬市教育委員会臨時会会議録

令和5年第2回清瀬市教育委員会臨時会が令和5年11月8日（水）午前9時に招集された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和5年11月8日（水）午前9時
- 2 場 所 研修室3
- 3 付議案件 別紙議事日程のとおり
- 4 出席委員 坂 田 篤 （教育長）  
宮 川 保 之 （教育長職務代理者）  
粕 谷 衛 （委員）  
尾 崎 啓 子 （委員）  
鈴 木 美 紀 （委員）
- 5 事務局 大 島 伸 二 （教育部参事兼教育指導課長）  
馬 場 一 平 （教育部参事兼教育支援担当課長）  
宮 本 央 子 （教育企画課長）  
北 平 宣 之 （教育企画課特命担当課長）  
長谷川 奨 （指導主事）  
宮 野 将 史 （指導主事）
- 6 書 記 鈴 木 和 也 （教育企画課主事）

# 令和5年第2回清瀬市教育委員会臨時会

令和5年11月8日(水)

研修室3

## 臨時会

日程第1	会議録署名委員の指名(粕谷委員)		
日程第2	教育長報告		
日程第3	教育委員報告		
日程第4	報告事項1	新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会からの答申について	教育企画課特命担当課長
日程第5	報告事項2	清瀬市の全国学力・学習状況調査の結果について	教育支援担当課長
日程第6	報告事項3	清瀬市の不登校児童対策について	教育支援担当課長
その他			

開会

坂田教育長が開会を宣言

日程第 1 会議録署名委員の指名(粕谷委員)

粕谷委員を指名

日程第 2 教育長報告

教育長 報告は定例会で行うため割愛する。

日程第 3 教育委員報告

教育長 報告は定例会で行うため、割愛させていただいてよいか。

各委員 異議なし

日程第 4 報告事項1 新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会からの答申について

※オブザーバー

新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会 長澤 委員長

教育企画課特 先程、新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会(以下策定委員  
命担当課長 員会)は新校の基本構想及び基本計画に関する報告書を教育長へ答申した。同報告書について策定委員長澤委員長より概要を説明いただく。

長澤委員長 報告書は教職員、子供たち、保護者、ワークショップに参加された地域の方、その他関係者の方が他のご意見を取り入れて作成した。別冊としてまとめた資料編については、現在の敷地や学校の状況をふまえて建て替え手順、スケジュール、コストを考慮して配置の考え方をまとめている。

デジタル化を中心として、社会が大きく変化する中で教育にも変革が求められている状況で、国が教育や学校施設のあり方について、どういう考え方を持っているかという事を整理して、清瀬小学校と清瀬第八小学校の統合について検討を行ってきた。学校の置かれている背景課題を共有して、会議で出された要望・意見を受けとめ、建設に向けた目標や施設の考え方、敷地の中の配置や構成等について議論した。

市がこの報告書、参考資料の内容を理解し、新しい教育に対応して子供たちが大きく育ち、学校を中心として地域が発展させていくような学校を作っていくていただくことを願っている。

報告書の1章では、1つ目に計画の背景として、清瀬市の概要、上位計画となる都市計画マスタープラン、清瀬市公共施設等総合管理計画、清瀬市立学校の適正規模・適正配置に関する基本方針、清瀬市公共施設再編計画地域レベル編の説明をしている。2つ目に市の教育の基本理念を基に小中一貫

教育や特別支援教育、学校支援本部等について取りまとめている。3つ目に学校教育と施設の今日的な課題について、中央教育審議会の答申とそれを受けた施設整備の考え方として、新しい時代の学びを实践する学校施設の在り方を整理している。

2章では、清瀬小学校の概要について、歴史や教育目標、校地等の環境、学校施設についてまとめている。

3章では、学校づくりの目標として、「ひとりひとりが安心して学び、ともに育つ教育環境の実現のために」をテーマに掲げ、学び、生活、共創、安全、環境、参画という柱を立てて、策定委員会やアンケートを通じた意見・要望をまとめて基本構想とした。

4章では、敷地の法的な条件をまとめ、計画学校規模を推定して、文部科学省が定めるクラスに応じた補助基準面積の必要面積を算出した。

5章では、基本計画として、環境への配慮や災害対応、セキュリティ・安全の課題も含めた10の目標を施設計画の目標と定め、計画課題をまとめた。それぞれの施設の面積を割り当て、単純な廊下階段通路の割合は、計画を工夫すること前提に一般的なものよりも低くして、その分、学校の教育活動や子供たちの交流活動、教職員の執務環境等を十分に確保するようにしている。割振った面積を想定して、学校全体の構成案としてダイアグラムとして示した。各室・スペースの方針として、それぞれの部屋の目的とプランをまとめている。学校施設の地域開放と安全対策について、地域開放に関する規則と今後の方針、検討課題を示した。大規模災害時の避難所利用として、期間の長期化によるニーズの変化や学校再開を視野に入れた運用方法を整理した。地球環境配慮と学校施設のあり方については、地球温暖化対策として脱炭素化を目指し、断熱や環境負荷を抑えるような施設づくりを示した。ICT/教育DXのあり方では、ICT化に対応するため、システム構築を見据えた整備計画を検討していく必要があると示した。

6章では、策定委員会の体制や記録、各委員の感想をまとめた。

教育長

報告書の骨子になる学校づくりの目標について、議論をしていきたいと思う。学校が21世紀を生きる子供たちにどういった教育を施すべきかという基本的なところを固めた上で、清瀬市としてどういった教育を施していくべきであるか、そのためにはどういった施設が必要なのかという議論に発展すると思う。

粕谷委員

策定委員会の委員の方は学校関係者、教育委員会、保護者、公募の方と多岐にわたっていたと思うが、学校づくりの目標にある6つの柱で、最も重要視されたものは何か。

長澤委員長

皆さん、それぞれの意見があると思うが、その中で多く出されていた意見は主体的な学びや9年間を通じた学びという点を大事にしていると感じた。学校は勉強や授業だけの場所ではなく、子供たちが学校生活を送るときにその気持ちに込められる場所や居心地のいい場所を提供できるようにしていきたいと思うところが一番の意見であると思う。

尾崎委員

議論の中で、清瀬の良さや清瀬らしさをいかすための学校づくりという観点

での議論はどの程度あったか。

基本計画の施設計画の目標で大小さまざまな目標があり、具体的なものと理念的なものが混在しているため、この中でも重要になる4番「対話的な学びを促進し、自立した主体的な人格が育つ教室空間」を一番に持ってくるなど並べ方の見直しをしてはどうか。

長澤委員長

清瀬らしさについては、策定委員のかたから最初に出された意見が、清瀬が好きであることや清瀬が住んでいてとてもいいまちだという内容であり、策定委員会を進めるうえで非常に大きなテーマであると感じた。

基本計画の施設計画の目標については、並べ方の検討をしたいと思う。

教育長

清瀬らしさについては、学校づくりの目標や基本計画にどのように反映していったか。

長澤委員長

それぞれの目標や計画のベースとして、清瀬らしさを含めた内容としているが、特に施設計画の目標の8番「地域の文化的活動や社会教育活動に資する施設」が、清瀬というまちの歴史や文化を取り入れながら活かしていける施設を目指す目標としている。

鈴木委員

学校づくりの目標は非常に大事な根幹の部分になるが、その中に対話やコミュニケーションについての内容が詳しく言葉で表現された方が良いと思う。

地域の人とのつながりの中で、一方的に地域の方からつながりをいただくだけでなく、学校として子どもたちなりに地域へ発信していけるように育てていくことについて、策定委員会で何か意見等があったか。

長澤委員長

学校づくりの目標の中に、対話やコミュニケーションについて具体的な表現を含めていくことも検討していく。

子供たちが地域に貢献していけるようにするという点については、子供と地域の相互的なつながりという内容で記載しているため、それぞれを具体的な文言として表現することを検討したいと思う。

宮川職務代理者

学校づくりでの9年間の成長をチームで支えるという点は具体的にどのように行っていくのか。9年間で育てるためには小学校と中学校が分かれていては難しく、そのためには施設を含めて9年間の成長をみんなで支えるための空間を作っていく必要があると思う。

長澤委員長

9年間の成長をチームで支えるためにはどういった体制、地域社会、仕組みが必要であるかという点については、これという正解がなく、これから学校や地域が自分たちで作りに上げていく必要があると考えている。そのためにも多くの方が参画して意見を出し合いながら、地域社会と一体となる学校を作るために施設の形を含めてみんなで考えていく価値のある課題であると考えている。

教育長

これから市民の方々に報告書の内容を見ていただく際に、最も見られるところは学校づくりの目標であると思う。学校づくりの目標は個別最適な学びや協働的な学びの内容についての解説があると学校づくりの目標を理解しやすいが、知らない方が見た際に学校づくりの目標の意図が伝わらない部分があるように思う。ここでは未来を見据えて清瀬がどういった教育を行っていくかが書

かれていて欲しいと思う。学校づくりの目標に令和の日本型学校教育の内容をわかりやすく含めて記載できないか検討をしてもらいたい。

宮川職務代理者

検討された内容を構造的にもう少し示されていると良いと思うので教育長の指摘されていた点を調整していただきたいと思う。

9年間を通して成長をさせていく必要があり、そのための空間づくりとして、学校の施設も統合的な施設にするという点について記載するように一部を再構成することで、行政が目指していく教育がわかりやすく伝わると思う。

長澤委員長  
教育長

教育について、踏み込んで書くことを少し抑えているところがある。

報告書を受けて、どういう教育を進めていくのかを教育委員の中で議論しながら、施設設備は効果的に活用できるよう、教育行政を進めていきたいと思う。

日程第 5	報告事項2 清瀬市の全国学力・学習状況調査の結果について
-------	------------------------------

教育支援担当  
課長

清瀬市で育みたい資質能力を5つの観点に分けて示した。

国語の問題で、記述式について課題があり、無回答率も 11.6%となっていた。思考力、判断力、表現力に関わる記述式の問題に大きく課題が見られる。

特に話すこと聞くことの問題で課題が顕著となっている。本問は子供がボランティアに協力してくれている方へインタビューをしている場面を想定した問題で、二人のボランティアの会話の様子を基に自分の考えをまとめる問題となっている。記述問題のため、正答内容についても段階的に解答類型が示されている。最も高度な回答として、二人のお話の共通点等を抽出してまとめた書き方となっている。清瀬市のある小学校では最も高度な回答の割合が20%で、東京都全体と比較すると10%も低くなっている。思考力、判断力、表現力という観点から示すと、人の考えや資料から共通点を見出してまとめていくという作業に課題があることが見えてくる。単純な教科の正答率の比較だけでなく、解答類型の数値からどこに清瀬市の子供たちの課題があるかを見ていく必要がある。

書くことの問題にも似たような傾向があった。子供が米作りについて調べる過程で見つけた観察記録カードと農家の方へのインタビューから作られたグラフが示され、カードとグラフから分かったことをそれぞれまとめた上で問題点を抽出して、課題解決の方法を文章にして書く問題があった。こちらはカードとグラフの両方を使ってわかったことを書かなければ正解とならないが、正答率が低くなっていて、複数の異なる情報を分類整理して、自分の考えを書くところには課題があるということが見えてきた。

今後の取組として、今回見えてきた課題に対して、どう解決していくのかを、ICT の活用を視野に検討していきたいと思う。考える力は、国語科だけでなく、すべての教科で共通した課題であり、考えの形成に関わる活動を継続して重視していくような授業改善が求められていると考える。

鈴木委員

今回のように中身に踏み込んだ分析はとても重要であると思う。国語は聞

く、読む、書くの三つの領域が全部繋がっている。それぞれの領域で苦手意識を持ってしまう子供もいるため、クラブ紹介のような身近なものを活用して、伝えることを子供に経験させていくように授業改善していくことが非常に大切である。

清瀬市教育研究会を活用して、各教科の先生たちが学び合っていくことが必要である。

教育長 授業分析は課題を把握したうえで学校を跨いだ横展開が重要となってくる。授業改善は一朝一夕の問題ではないが、授業改善の研究を行っても先生方が異動することで文化として根付かない部分がある。学校や教育委員会がどのようなサポートを行っていく必要があると考えるか。

鈴木委員 社会が変わっていく中で課題も多く出てきてしまうが、教育委員会として重点化した課題を絞って、1年単位でなく複数年かけて変えていくことを提案していくことが大切であるとする。

教育長 教育指導課が行っているような分析は各学校でもしているのか。

教育支援担当 全国学力学習状況調査の結果については、各学校へは自校の分を持っており、各学校で分析を行っている認識している。

教育長 学校ごとに分析の温度差があると思う。分析の仕方については研究主任会等で共通認識をしていき、全校で同じように分析を行えるようにすることが教育委員会としては求められる。

教育支援担当 取り組んでいきたいと考える。今後、具体的な方法等について検討していく。

粕谷委員 学校の裁量を高めていき、学校ごとに個性を持つていくことは大切であるが、学力に関しては、各学校でばらつきが出てしまうことは好ましくない。学力に対する分析や授業に対するアプローチは学校の裁量ではなく、教育委員会が一律に指導して、足並みをそろえていくことが求められる。

考える力が低くなっているという分析結果があるが、学校の授業を見学する中で子供たちに考えさせることを念頭に置いた授業をしているかは、学校や個人によって異なっている印象を受けた。その部分をすべての学校で統一した授業をしてもらえると、保護者としては安心できると思う。

尾崎委員 昨年度は数値の紹介だけだったので、今回は細かい分析がされていてよかった。できれば過去三年くらいの推移のようなものから、毎年課題が同じものなのか、変わってきているのかがわかると良いと思う。

学校ごとに危機感を持って、工夫しているところもあると思うので、取り組みの紹介や学校間での共有を行えると良い。

意欲を高める為に結果のフィードバックは大切であるが、悪い結果ばかりをフィードバックされると、頑張っても結果がでていないという考えになってしまうので、少しでも伸びたところや良かった点をフィードバックして、先生方と共に喜ぶことで意欲を高めていってほしい。

学校訪問で、本来は子供たちが発表するべきところで先生が発表している場面があり、校長先生からはやりたいが時間がなく対応できていないという話

があった。考える力や発表する力を日常生活の活動の中に入れていくことを、教育委員会として方策を伝えたり、一緒に考えていくことで、より深く考えて実践していく必要があると思う。

教育長 教育課程の時間が不足するとすれば、教育課程外の活動の中で考える力や発表する力を身につける時間をつくっていくことも必要だと思う。

宮川職務代理者 対話的な学びがあってこそ個別最適な学びであると思う。自分の考えをはっきりと伝えていくことの習慣化が足りていないと感じるので、その力を育てていく必要がある。個別最適な学びの中で言語活動や体験活動は核とするべきである。学力テストの結果はあくまで結果であり、自分の想いを伝えられるような人間に育て上げるのが、個別最適な学びや協働的な学びの目標であると思う。

教育長 教育委員会として何を行うべきであるか。

宮川職務代理者 学力分析がとても参考になると思う。

学級経営をどのように行っていくかが重要であり、体験型の授業を行うことを支援していくことが求められると思う。コミュニティスクールや学校支援、ボランティア等を活用していくことも有用だと思う。

教育長 市内全体で学びのテーマを年度ごとに設定して、各学校にそれぞれ取り組んでもらうということも1つの方法であると思う。各学校での課題もあり、教育委員会で統一したテーマを設定することが難しいと思うが、教育研究会は行う事ができると思う。

鈴木委員 教育委員会から指示があるから各学校が取り組むではなく、教育委員会からテーマや情報等を提供して、各学校が自主的な考えで判断や選択を行う事が出来るように進められると良いと思う。

粕谷委員 課題設定をあらかじめ教育委員会がしてしまうより、各学校から課題や要望を出してもらい、教育委員会でそれらを組んだ課題設定を行うと良いと思う。

尾崎委員 学校ごとに課題は異なるのでそれぞれの声を聴くことが重要で、その中で共通のテーマを探していく必要がある。教育委員会から各学校へ押し付けにならないよう、一緒に課題へ取り組んでいくということが必要だと思う。

年度ごとに区切ってしまうのではなく、数年間単位で大きなテーマを設定して、その中で年度ごとに小さなテーマを設定していくという方法もある。

宮川職務代理者 各学校が主体的に取り組むということが重要だと思うが、教育委員会からテーマを提示するようなきっかけをあたえることは必要だと思う。

今回の国の学力調査について、各学校ではどの程度、分析をしているのか。

教育支援担当課長 指導主事が各学校を訪問する際や授業に関わる研修会では、必ずその話をするようにしている。その際に、既に確認している先生もいるが、まだそこまで手が回っていない先生方も多い印象である。

宮川職務代理者 今、教育が何を目指しているのかというのは、学力調査に表れていると考える。先生同士で問題の分析を行ったりすることで、情報交換を行う機会にもなると思う。



教育がどのような方向に向かっているかというのを研究していく必要がある。作品や文章に対してお互いに評価や批判を行い、議論を行ったり、意見を表すという学習活動が日本の学校教育は足りていないと思う。対象を多面的に評価したり批判したりするような設問が多くなっていて、クリティカルシンキングの力を身につけさせて、社会で活躍できる人材に育てていけるような教育を教育委員会が舵取りしていく必要がある。

教育長

研究主任会を通して、学力調査の分析について、スキルを身につけられるような研修の機会を設けることを令和6年度の施策に加えていただき、どのような形で反映されたか報告をしていただきたい。

授業改善を計っていく必要があるので、14校に対して注力してもらうテーマを示していく。その前に各学校の課題意識や研究テーマを収集して共通のテーマを示せるようにしていただきたい。

二者懇談会等を通じて学校と意見を交換し合いながら、次年度の方向性を決めていきたいと考えている。

宮川職務代理者

市報の学校探訪について、各学校の校長先生から成果効果や改善点を伺いたいと思う。学力調査は教育の1つの側面しか示せていないと思うので、学力調査では見えない教育の成果を示せるものであると思うので、それに対しての検証が必要だと考える。

教育長

これについても二者懇談会等で議論していきたいと思う。

教育指導課長

学力調査の分析については、各学校で行った結果を授業改善推進プランとして教育委員会へ提出いただき、各学校のホームページにも公開している。今年から授業改善推進プランの形式を変更して、各教科での重点を絞り、学年ごとに記載していただく内容となっている。教育委員の方へはまとめたものを後日、ご紹介させていただきたいと思う。

教育長

学力調査の分析は各学校で温度差があると思うので、教育委員会が主導して温度差を埋めていく必要があると思う。

日程第 6	議案事項3 清瀬市の不登校児童対策について
-------	-----------------------

教育長

個人情報に抵触する可能性があるため秘密会での取り扱いとする。

閉会
----

坂田教育長が閉会を宣言

閉会 午前12時20分

令和5年10月25日

上記のとおり会議の顛末、大要を記し相違ないことを証する。

清瀬市教育委員会

教 育 長

教 育 委 員